

水道事業の広域化に関する市民説明会 概要 【真田中央公民館】

1 開催概要

開催日時	令和6年12月18日(木) 19:00~20:45
開催場所	真田中央公民館 大ホール
参加者	49名
報道関係	1社

2 主な質疑応答

No	項目	質問・意見等	回答
1	水源関係	千曲市、長野市の方へ水を送ることになると思うが、水利権はどのようになるのか。	<p>・千曲川や神川などの河川から取水する水利権は、国土交通省の許可により使用者に認められるものであるため、広域化した場合、使用者である企業団に引き継がれることになる。</p> <p>・山の湧き水などの湧水水源は、慣行水利権と言われる昔から地域で使用してきた権利があり、地元のご理解をいただき、取水量などを約束してきた経過がある水源もあるため、現在の上田市との合意内容を基本として、地域の実情に応じた対応を検討したいと考えている。</p>
2	広域化の検討理由	人口減少、施設・管路の老朽化、災害対策は、日本中の問題である。上田の水がおいしい理由は、自然に恵まれた環境と、染屋浄水場の緩速ろ過にあると理解している。統合しても料金は右肩上がりの試算だが、日本中の水道が同じ状況で、最近は全国各地で大幅な水道料金の値上げが進んでいる。上田市の水道料金は安い方であるが、あたかも破綻するかのような説明で、恵まれた水があるにもかかわらず、その誇りを捨てて広域化しようとしている。この統合のメリットがわからず、何のためにやるのか疑問である。	<p>将来、今より水道料金が上昇していくことは否定できないが、少しでも将来世代の負担を減らすためにはどうしたらいいか、この点のために広域化の検討をしている。上田市の水道が破綻するとは言っておらず、料金を上げれば当然経営は成り立つが、将来世代に対してどのような水道事業を残すかを考える中で、広域化を一つの有効な手段として考えている。</p>

<p>3</p>	<p>施設整備</p>	<p>・統合の象徴的な工事計画は、30 km にわたる太い水道管を千曲市、長野市方面に新設することだが、282 億円もかけてなぜする必要があるのか。</p> <p>・能登半島地震では、水道の復旧が遅れ、長い水道管を通すことは、逆にデメリットだとも言われ、近場で小規模な浄水場を造り供給する方が安全安心に繋がるのではないかと国の考え方も変わってきている。この計画は莫大な無駄であり、国の補助金も私達の税金である。こういう問題点があるにもかかわらず、あえてこの長距離の太い水道管を設置するのが、あたかも広域化のメイン工事としていることを見直すべきではないですか。今は食料も地産地消が見直され、ただ大きくすればいいという時代ではないことを承知して、この時代遅れの工事を、莫大な税金を使いやろうとしているのか。</p>	<p>・広域化した場合の送水管の複線化は、上田長野間の地域全体の安全性を考えたときには、当然必要な事業と考えている。この事業は上田市には直接的な影響はないが、整備を進めることで、下流域の浄水場の更新が将来不要になるため、その費用削減効果は上田市にも恩恵があり、将来世代の負担軽減に繋がるといえるのが一つである。</p> <p>また、地域全体の安全性向上のため、上田市が今困っている老朽化管路、耐震化が遅れている施設や管路の整備に広域化の補助金を活用して、相当額を投資する計画である。</p> <p>・能登半島で水道の復旧が遅れた理由としては、長い管路が影響したわけではなく、地形や道路の寸断、市内の管路や個々のお宅の給水管の破損など、違う理由も当然ある。国の基本方針としては、地域に密着した水道施設をやるべきだというような考えもあるが、これは地理的な状況による国の考え方で、能登半島のような中山間地と、一般的に言う平野地では違うものと考えている。上田・長野地域においては、中山間地に今ある水源は当然守り続ける考えであり、平野地のような地形では、危機管理体制と経費の抑制につながる効率のバランスをしっかりと考えてやっていく必要があると考えている。</p>
----------	-------------	---	--

4	運営体制	<p>広域化で企業団ができると、企業団が物事を決めていくわけで、企業団は地方公共団体の一つだとは言いが、民間との協力関係を広げ、特に大規模な工事については一括発注方式で、大手企業の一括受注についても触れているが疑問である。要するに地域の事業者に優先的に発注することはできなくなるわけで、下請け仕事しか来なくなる。一括発注方式は大規模な施設整備と条件を付けてはいるが、いろんな分野に拡大していく可能性があり、民営化ではないと言いながら、民間がコントロールするような事業運営になるのではないか。これは地方自治の空洞化を生むことになるのではないか。</p>	<p>広域化した場合、補助期間中は事業費が増大することが想定されており、例えば官民連携という民間の力を借りることも必要になるのではと考えている。ただし、地域の民間業者は、地域の水道を守っていただく根幹をなすものであり、建設・上下水道等の関係団体とも現在、懇談をしている中で、あくまで地域の業者が第一優先ではあるが、設計・施工一括発注方式についても、工事業者の皆様のご意見をお聞きしているところである。</p> <p>企業団については、各構成団体の議会から選出された議員で構成される企業団議会の設置、また、構成団体の代表者（市長等）で構成する運営協議会の設置について、素案として、基本計画の中でお示ししたが、地域の声をしっかり伝える体制を考えているところである。民営化にいても、構成団体としては、民間に運営権や全ての事業を任せることはしないということ、広域化の前提条件として確認している。</p>
5	料金関係	<p>菅平にポンプで水を送る動力費、また赤井浄水場の浄化膜にお金がかかるということで、つちや水源を開発して水道料金を安くしようということで進めてきた経過がある。</p> <p>地元で水源開発に関わった1人として、料金が安くなるからいいだろうと思っていたが、広域化すると料金が上がるのではないかと心配している。</p>	<p>つちや水源を活用することによる料金の抑制効果は、これまでは投資が中心であったが、運用が始まったため、これから効果が発生すると思われる。上田市の供給単価の推移の中でも、当然、つちや水源の開発の恩恵による施設の統廃合等による料金の抑制効果を反映したものとなっている。あくまで広域化することによって、つちや水源の料金抑制効果がなくなるということではなく、続いていくものである。</p>

6	その他要望	<p>つちや水源の開発にあたり一番の問題は、大日向と菅平の境界を市の職員が知らなかったことである。県から牧場開発の話があった際に、大日向自治会に確認せず、間違えて菅平自治会に確認し結論を出してしまった経過がある。</p> <p>今後、水源を汚染するような施設を作る計画があったときには、必ず大日向自治会に話を通すよう強くお願いする。</p>	<p>地域の実情等についてはしっかり引き継いでいき、今後も引き続き水道事業者として、地域の皆様のご理解をいただきながら、取り組んでいきたいと考えている。</p>
7	水源関係	<p>湧水の水源地は、今後どのようにしていくのか。</p>	<p>つちや水源などの湧水水源は、地域に密着した水源であるため、地域の水道を守る水源として引き続き管理運営をしていきたい。つちや水源のような上流側に優良な水源があるとすれば、その下流の水源地等については将来的には整理することも考えられるが、危機管理や効率性のバランスを考慮しながら考えていきたい。</p>
8	検討経緯	<p>これまでの経緯として、平成 26 年水道事業運営研究会が設立されているが、どこからこういう話が出てきたのか。</p>	<p>水道事業は、水道法の中で、本来は市町村の事務と整理されており、県企業局から長野市、千曲市、坂城町、上田市の方へ移管分割したいということで協議があり、平成 21 年に移管分割検討会を立ち上げ検討を開始した経緯がある。この検討の中で、坂城町と千曲市においては、水道事業の経験や大きな投資が必要となることなどを理由に困難であるという結論に至り、平成 26 年にいったん中止となったが、将来に向けてこの地域にふさわしい水道事業がどうあるべきか、視点を変えて、協力し合ってできることはないか考え始めたのが平成26年であり、その結果が今に繋がっているという経過である。</p>

9	施設整備	上田から長野まで送水管を複線化した方が上田市に恩恵があるとのことだが、具体的になぜ恩恵があるのか。	国の補助制度は、広域化に必要な事業についてまず補助金があり、加えてその金額を上限として、地域の困っている施設や管路などに投資ができる補助金が別に用意されている。今回お示しした計画では、広域化に必要な事業 500 億円のうち、送水管の 2 重化に係る金額が多く計上されているが、一方で、広域化事業費を上限として活用できる別の補助金 500 億円を計上する中では、上田市に大きなウェイトが置かれている。地域の安全性と上田市が困っている事業の進捗が図れ、また、広域化に取り組んだ場合の料金の抑制効果も示されていることから、結果的に上田市にも恩恵があり、有効な手段であると捉えているところである。
10	広域化の効果	もしこの広域化がされた場合、一番メリットのある自治体はどこになると考えているか。	どの事業体もそれぞれ効果があるということに取り組んでいるところであり、事業体ごとの効果の度合いについては、それぞれの思いや考え方が異なるため、判断できない。
11	その他要望	広域化の関係で、審議会を傍聴したが、あまりにもずさんな進め方という印象を持っている。11 月の審議会では、ある委員が広域化に反対する方々を審議会に呼び、話を聞くことを提案し、事務局は意見を聞く機会を設けることも考えると答弁しているが、12 月の審議会では、全くそのことがスルーされていた。3 月には市の方針を決めたいとのことだが、審議会でも委員の要望に応え、しっかり審議をしていただきたい。 (回答不要)	/

12	給水関係	<p>染屋浄水場から塩田、仁古田、小泉へ給水するため、諏訪形浄水場へ送水することだが、染屋浄水場の供給量は今よりも増えるのか。</p>	<p>染屋浄水場は、今後、耐震化・更新工事を進めていくが、浄水能力に変更はなく、給水区域を変更しても、染屋浄水場からの供給量は現状維持で考えている。</p>
13	水源関係	<p>新規水源開発とあり、四阿山の方から取るようであるが、川の水や農業には影響はないのか。私は農業をやっており、渇水時は田んぼの水が不足することもあり、取水量が増えること心配である。また、神川は魚の放流もしており、良い漁場になりつつあるので、その点も気にかけていただきたい。</p>	<p>新規開発する滝の入水源については、川の水環境を守る条件となっている。水源のある土地は、上田市東御市真田共有財産組合の所有地であり、山から湧き出る水が神川に合流しているが、水源開発にあたっては、神川沿岸土地改良区とも協議をし、農業関係の皆様からも了解を得ているところである。</p>
14	人材確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年時点の職員48名中50歳以上の職員26名(54%)という数字が出ていて、かなり危機的な状況だと思うが、これは上田市全体または他の部署と比較して、上下水道局だけの特徴的な状況なのか。 ・なぜこういう状況になってしまったのか。長期的な視野や計画的な人材育成や適切な採用や配置というような考え方がなかったのか。 ・課題3「水道事業を支える人材不足」の中で、市営水道の職員数が令和5年に59人で令和53年には37人と推計しているが、どういう根拠によるものか。 ・企業団になると人材育成がどうして解決するのか。専門職員の確保や育成がどういう仕組みで可能なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年に4市町村で合併したことにより、一定期間、職員の新規採用を抑制してきた経過がある。そのような中で、年齢構成は浄水場の運転管理や管路の維持管理等は経験者が優先され、このような割合となっており、水道事業の特徴的な傾向だと認識している。 ・新規採用職員の抑制等の影響が考えられる。 ・職員数の計算根拠は、人口推計によるもので、人口が減っても、市の職員だけは一定数維持されるとは考えられないため、人口推計に比例させている。 ・人口減少社会において一定の職員を維持し続けるのは大変厳しいものであるが、能力を持った職員を育成しながら組織を守っていくには、スケールメリットとして組織が大きい方が有利だと考えるところである。

15	財政シミュレーション	<p>水道の耐震化を進めるため、耐震化の補助率を3分の1に引き上げるだとか、40年経過という制限をなくすというような記事が新聞に載っていたが、今までの説明だと、そういう補助金が上田市の場合は一切ないという前提での話だというふうに聞いている。この3分の1の補助を入れた場合、どのようになるのか、比較して教えていただきたい。</p>	<p>新聞に掲載された補助制度の前段として、水道料金が適正な水準になっている事業者が対象となっている。水を作る料金よりも安く売っている事業者が全国で半数近く占める現状があり、支出に対する料金収入の割合「料金回収率」が100%以上であることが要件とされている。補助が拡大される内容は、管路について設置から「40年以上が経過」という条件があったが、これを撤廃して耐震性のない管については補助対象に、浄水場や配水池などの施設は、補助率を4分の1から3分の1に引き上げるというものである。</p> <p>これまで説明してきたのは、広域化補助の話であり、財政シミュレーションでは、令和8年から令和16年の9年間の広域化補助金の対象期間としている。ただしこの補助は、令和16年度で打ち切りのため、これ以降については、今回拡充される補助金についても、当然活用していくものであり、長期の考えでいくと、単独経営と広域化した場合の違いはこの9年間のみに単独事業の補助金の対象が拡充されることであるため、財政シミュレーションは再度し直す必要ないと考えている。</p>
----	------------	--	--

16	要望	<p>これだけ多くの反対意見が出ていたので、それを無視するのはおかしな話である。</p> <p>50年先のことを決めるので、この数ヶ月で決めるのは問題があり、あと1年かけて検討してもいいのではないか。初めて話も聞く人も多く、もっと市民の理解が深まるよう、また説明会の場を持っていただきたい。</p> <p>(回答不要)</p>	
17	要望	<p>補助金は、広域化しないと出ないみたいな言い方に聞こえ、そこをやたらと強調しているが、料金の差はそれほどないのではないか。50年先のことはわからない。シミュレーションは形式的で、実際工夫したらどうなるか、また、どんな災害があるかもわからないわけで、いろんな場合を考えると、単独で継続することがそれほど不利益なのか。</p> <p>この議論は市民のためではなく、行政のためだけにやっていて、市民の顔が見えてこない。何のための説明なのか。皆さんの意見を聞いて参考にしようなんていう気はサラサラございませんというふうにしか聞こえない。今なら止められるが、突っ走ったら後戻りできなくなり、そのときは手遅れである。ぜひ市長にもその旨お伝えいただきたい。</p> <p>(回答不要)</p>	

18	広域化全般	<p>上田市の合併も、補助金ありきで動き、そのときは人材確保をうたい文句でやってきたが、結果、全然人が育っていない。過去を見れば、お金目当てで走ってきた弊害が見えるのではないか。そこをちゃんと試算に入れないと、人も確保され、いろいろ抑制できるからいいみたいに書いてあるが、振り返ってみれば一目瞭然である。上田市が合併したことのメリット・デメリットをもう一度振り返り、本当にこの事業をやる必要があるのか、そこを検討いただきたい。</p>	<p>市町村合併のときと今回では、若干、人の関係が違い、市町村合併では、市町村が一緒になることで、行政のスリム化を一つの大きな目標としていた。職員を削減して、経費を抑制しようという感じで、職員を減らす方向で努力していた。一方で、今回の統合は、しっかり専門人材を確保しようというところもあり、その辺で内容が違うことをご承知いただきたい。</p> <p>合併等の反省等も踏まえ、今後の水道事業、あるいは検討に生かしていきたい。</p>
----	-------	---	---